

# 生物系研究室卒業研究中間発表会報告

現在、環境システムマネジメント専攻の卒業研究中間発表会が分野ごとに開催されていますが、2014年10月12日（日）に生物系の5研究室でも発表会が開催されました。全部で14名の4年生が発表しましたが、半数の7名がプロジェクトと関わりのある研究テーマで発表しました。発表会の参加者（学類の2~4年生，院生，教員）は43名でした。発表タイトルと内容を簡単に報告します。

塘研では難波元生君「安定同位体比を用いた裏磐梯地域の河川における底生動物群集の食物網解析」と武田悠太君「強酸性河川酸川における底生動物相とその食物網解析」が発表しました。どちらも昨年度プロジェクトで導入した大型設備「安定同位体比質量分析装置」を使った研究です。まだ分析手法を確立させている最中ですが、食物網の解析結果の一部も紹介されました。

難波研では末長友佑君「河川・湖沼堆積物中の放射性セシウム濃度から推定される沈着後の動態」と山田恭央君「桧原湖および沼沢湖の季節的なプランクトン組成の変化」が発表しました。どちらも裏磐梯の桧原湖をフィールドの一部にしており、湖底堆積物中のセシウムの分布の場所による違いや動物・植物プランクトンの種組成の季節による違いが紹介されました。

木村研では石川和希君「裏磐梯、1888年泥流上の森林遷移」が発表しました。磐梯山噴火の影響を受けた場所の現在の植生については、プロジェクトのメンバー（や裏磐梯地域の人々）の多くが興味を持っている部分ですので、注目度の高い研究です。調査地を2つ設定して調査が進められており、それぞれの植生について明らかになってきた事柄が紹介されました。

黒沢研では遠藤優年君「裏磐梯・桧原湖東部に広がる原生的環境の植物相」と佐藤雄太郎君「裏磐梯の無名湖沼の水生植物相」が発表しました。どちらの調査でも保護上重要な種の分布が確認されたことが紹介されました。

プロジェクトと関連した研究に限らず、発表されたすべての研究の今後の展開が楽しみです。

